



▲明治19年の鈴木煉瓦製造場（文化資料室所蔵）

「白石レンガ」 の歴史

～鈴木煉瓦製造場の軌跡～

札 幌のれんがが製造の歴史は明治時代までさかのぼります。その発祥といわれる工藤宇三郎氏の工場（現在の中央区）が、明治10年、1万1千個のれんがを開拓使工業局に納入したという記録が残っています。

その後、明治20年代まで白石村と月寒村を中心にれんが工場が次々誕生。中でも操業が長く続き技術的に優れていた工場として第一に挙げられるのは、鈴木佐兵衛氏が明治17年に創設した「鈴木煉瓦製造場」です。

白石村87番地（現在の本通9丁目ほか）で、鉄道施設用などのれんがを生産・供給。良質な粘土を生かして北海道における本格的なれんが製造業の先駆けとなりました。北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）に使用されているれんがの多くがここで造られたものといわれています。また、サッポロビール博物館（旧札幌製糖工場）などにも使われました。

明治21年に完成した北海道庁旧本庁舎は、同42年に大火災に見舞われますが、頑丈で良質のれんがは損傷も少なく、大部分を残したまま修復されました。

れんがの他にも瓦や土管などの製造を手掛けた鈴木煉瓦製造場は、白石村民の格好の稼ぎ場でした。農業で生計が成り立つまではここで稼ぎが唯一の現金収入で、家計は大いに助かったといえます。

また、明治36年4月に本格的な駅舎が完成した白石駅の敷地は、同製造場の当時の社長・豊三郎氏（佐兵衛氏の長男）が提供。労力や資金の援助もしたといわれています。

札幌のまちづくりに大きく貢献した鈴木煉瓦製造場ですが、幌内鉄道を経営する北海道炭鉄道株式会社が野幌に大規模なれんが工場を開設したこと、セメントやコンクリートなど、れんがに代わる建築資材が現れたことなど、さまざまな要因が重なり、徐々に生産が減少。大正末期に閉鎖となりました。

つ つむレンガ・思い出レンガは、白石レンガの歴史を後世に伝えようと取り組まれたものです。

生まれ変わった駅前広場で新たな時を刻み始めた白石レンガ。その歴史と共に、このプロジェクトに携わった現代の多くの人の思いを未来に伝えます。

【参考文献】白石歴するべ、札幌の歴史第15号、さっぽろ文庫第26巻「明治の話」ほか

つむつむレンガ・思い出レンガ

設置場所：JR白石駅南北駅前広場
（平和通3丁目北、北郷1条5丁目）



【詳細】

つむつむレンガについて

建設局土木部道路課 ☎211-2617

思い出レンガについて

NPO法人白石ネット ☎866-6683



▲現在のJR白石駅・自由通路

